

令和元年度第3回小牧市母子保健推進協議会議事録

【日時】令和元年11月28日（金）午後1時30分～3時00分

【場所】保健センター 大会議室（2階）

【出席者】

- ・出席（11名） 林芳樹委員、山本恒子委員、三輪茂美委員、
山崎和子委員、村瀬佳子委員、松永円委員、
森島厚子委員、川崎由美子委員、上圓幸子委員、
今枝陽子委員、旭百合江委員
- ・欠席（4名） 竹内友康委員、
兼子正巳委員、伊藤加代子委員、永井政栄委員
- ・事務局（8名） 西島宏之保健センター所長
野口弘美保健センター所長補佐
三枝尚子母子保健係長
麦島巳哲子主査、榊崎千里主任、
後藤奈津子保健師、澤野萌保健師、
安立麻希子保健師
- ・傍聴者（0名）

【次第】

1 開会

2 協議事項

- (1)自己肯定感を高めることのできる地域での取り組みについて
…資料 1-1～5

3 その他

次回予定：令和2年2月28日（金）午後1時30分～

1 開会

（事務局：所長）

皆様、こんにちは。本日はご多用の中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、令和元年度第3回母子保健推進協議会を開催いたします。私は司会を務めさせていただきます、保健センター所長西島でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。まず、委員の出席状

況でございますが、事前に欠席のご連絡をいただいておりますのは、竹内委員、兼子委員、永井委員、伊藤委員の4名となります。それから、松永委員と上圓委員につきましては、遅れてご出席いただくのご連絡をいただいておりますので、よろしく願いいたします。それでは、会議の開会に先立ちまして、林会長よりご挨拶をいただきます。会長、よろしく願いいたします。

(林会長)

ありがとうございます。第3回小牧市母子保健推進協議会を始めいきます。よろしく願いします。

(事務局：所長)

ありがとうございます。この会議につきましては、公開となっておりますので、会議後事務局で会議録を作成させていただき、ホームページにおきまして公開させていただきます。併せて発言委員も公開させていただきますので、ご承知おきいただきますようよろしく願いいたします。それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。

・会次第

・資料1-1、1-2、1-3、1-4、1-5

となります。それから、前回の協議会での資料の差し替えをさせていただきたく、机上に配布させていただいております。平成30年度乳幼児健診未受診者支援結果の資料となります。こちらの方につきましては、大変申し訳ございませんが数値に修正がございましたので、本日差し替えの資料を配布させていただいておりますのでどうぞよろしく願いいたします。資料につきましては以上となりますが、皆様お揃いでしょうか。不足等ありましたら、お申し付けいただきたいと思います。ありがとうございます。現在のところ傍聴希望者はございません。それではここより議事に入らせていただきますので、ここからの進行につきましては林会長にお願いしたいと思います。会長、よろしく願いいたします。

2 協議事項

(1)自己肯定感を高めることのできる地域での取り組みについて

(会長)

ありがとうございます。それでは協議事項から始めます。協議事項の2「自己肯定感を高めることのできる地域での取り組み」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

よろしく願いいたします。前回の協議会では、親子健康手帳交付時のアンケートや、乳幼児健診での問診票、産後うつの質問票などの結果から母親の精神状態等が、県と比べてマイナスの要素が高いことから、自己肯定感が低い保護者が多いことが想定されるため、保護者の自己肯定感を高める取り組みとして、乳幼児健診時など保護者へのメッセージを送るなどのご意見をいただきました。また、日頃、保護者に接する周りの人の何気ない声掛けが自己肯定感を高めるのではないかというご意見をいただきました。そんな中で、保健センターでの取り組みとして乳幼児健診をはじめ、自己肯定感を高める取り組みをいろいろと実施しておりますが、中でも初めて親子に会う機会として、生後1～3か月の頃の赤ちゃんが生まれたお宅へ、近所のおばさんである保健連絡員さんが訪問し、保護者の頑張りを認め、地域で親子のことを知っていてくれる頼りになるおばさんとして、保健連絡員さんの赤ちゃん訪問があります。ここで、保健連絡員さんの赤ちゃん訪問について、ご存知ない委員の方もいらっしゃると思いますので、簡単にご説明させていただきます。

まず、お手元の資料1-2をご覧ください。保健連絡員さんとは、区長さんの推薦を受け保健センターと地域のパイプ役を担っていただいているボランティアの方で、平成31年度4月時点で123地区247人いらっしゃいます。赤ちゃん訪問以外にも、地区で健康展の開催や健康講座の開催などの活動をされています。お手元の資料1-3をご覧ください。赤ちゃん訪問事業は平成14年10月から、国が示した「乳児家庭全戸訪問事業」より先に始まり、保健連絡員さんの中でも、赤ちゃん訪問の目的・趣旨に賛同いただけた方に訪問をお願いします、実施していただいております。昨年度の実績を載せておりますが、訪問して下さった保健連絡

員・保健連絡員 OBさんは283名で、訪問した人数は対象者1,101人のうち967人となっており、全体の9割弱のお宅に訪問しています。この事業は、今年で18年目を迎えますが、この「赤ちゃん訪問」についてご存じない市民の方は多くみえます。広報や市民課へ出生届を提出される際にお知らせする等周知を図っておりますが、なかなか浸透していないのが現状です。

お手元の資料1-5をご覧ください。こちらは、保健連絡員が実施しております赤ちゃん訪問事業について、嬉しかったこと・困難なことについて、実際に訪問をされている保健連絡員さんやOBさん、訪問を受けた保護者、依頼している保健師、地区での民生委員さんなどからご意見をいただいたことについてまとめたものになります。嬉しかった点では、訪問をした保健連絡員さんからは、「訪問後に地域で会って嬉しかった」、「訪問時に保護者の方から色々お話されて良かった」などの声がありました。また保護者からは「地域の公園で保健連絡員さんから声をかけられ嬉しかった」、「『近くに住んでいるから声を掛けてね』言われて嬉しかった」などの声をいただいております。反対に、困ったこと・大変だったことについては、「知らない人からの電話や訪問に対しての不信感からか、訪問の約束をするために連絡しても、なかなか電話に出てもらえず、連絡が取りづらい」との声も多くいただきました。このことから、保健連絡員さんの負担になっていることや、訪問しても歓迎されない対応の場合があることから、保健連絡員さんの達成感も得られにくく、有意義なものになっていないのではないかと。また、出生数が多い地区では、保健連絡員さんの負担になるなど課題も出てきております。

赤ちゃん訪問をは、開始当初と比べると社会の状況も変化し、世の中が便利になった反面、隣にだれが住んでいるかも分からないなど近所の付き合いも希薄化し、子育てにおいても孤立化しやすい環境にあります。連日、児童虐待に関するニュースが報道され、また、乳幼児健診では、子育てに関する情報があふれている中、保護者の方たちは不安を抱えて子育てされている時代になっています。そんな時代だからこそ、温かい声かけ、地域での見守

りが必要なのではないかと考えております。

そこで、委員の皆様にご教示いただきたい点が2点あります。

ひとつは、これまで取り組んでまいりました赤ちゃん訪問についてご意見や感想などございましたらお願いします。

小牧の親子が自己肯定感を高められる地域となるよう、保健連絡員の赤ちゃん訪問などのように、地域や関係機関で現在取り組まれていることや、これからあるといい取り組みなどございましたらご教示をお願いします。

(会長)

ありがとうございます。事務局から赤ちゃん訪問についての説明がありました。協議事項に入らせていただきますが、赤ちゃん訪問は平成14年度から実施されているようですが、感想、並びに各地域での色々なお声がけ、こんなことをしているとか、こんなことをやりたいというようなことがあれば、ご意見をお願いします。三輪委員、お願いします。

(三輪委員)

赤ちゃん訪問について、保健連絡員さんが困ったこととして挙げている、なかなか連絡が取れないというこの方達の割合は、かなり多いのでしょうか。今の時代だと、こういう方たちはとても多いのではないかと思います。電話が鳴っても知らない電話番号だと出られない。訪問し、話をさせてもらう以前に、その機会が絶たれてしまうということがあると、まずそこから正していけないといけないかなと思います。

(会長)

どうでしょうか。事務局、何かデータはありますでしょうか。

(事務局)

実際に、電話が何割つながらなかったかということはデータとして出しておりません。また、訪問を最初から拒否されている方には、最初からお願いしていません。

お電話を差し上げてもつながらない場合、直接お宅に訪問をしていただくように保健連絡員さんをお願いをしております。9割は訪問できていますが、電話やメール、訪問しても連絡が取れ

ずお会いできていない方が1割前後いらっしゃいます。

(三輪委員)

そうしますと、どのタイミングでお母さんたちへ赤ちゃん訪問のお知らせし、訪問の希望の有無をお聞きしているのかおしえてください。

(事務局)

子育て包括支援センターで親子健康手帳の交付の際にアンケートを行い、このアンケートの段階で同意を得ています。そこで訪問の希望をしない方には、赤ちゃん訪問のご依頼はしておりません。

(三輪委員)

かなり妊娠初期となると、あまり具体的に自分で妊娠のイメージがつかない時期なので、私達も良くありますが、妊娠の初期に「困ったことは何かありますか。」と聞いても「具体的に全く分かりません。」と言われます。妊娠が進み出産を迎えると、具体的に困ったことなど出てきます。お母さんの心境の変化があると思いますので、親子健康手帳をもらう時だけではなく、もう少し後期に聞けたら良いのではないかと思います。『セールス等知らない人からの連絡を警戒して』とありますが、子育て世代包括支援センターや保健センターからですよ、ということをアピールしていただければ良いのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。では、上圓委員お願いします。

(上圓委員)

私も、今先生がおっしゃったように、親子健康手帳交付時だと何か月も後になってしまうということがあるので、里帰りの方だと難しいかもしれませんが、小牧市内で産まれるお母さんに関しては産婦人科の先生達と連携して、生まれたときや入院しているときに先生たちから「今度、保健連絡員から電話がかかってくるよ。」と声かけをしていただくのもひとつかと思えます。また、お手数になるかもしれませんが、保健センターからの電話だと比較のお母さん方は出られると思いますので、「こういう方からご連

絡が入り、訪問します。」とワンクッション置いても良いかと思いましたが。

(会長)

ありがとうございました。では続きまして、今枝委員お願いします。

(今枝委員)

先回もお話ししましたが、以前、保健連絡員をやっており、赤ちゃん訪問の経験があります。実際に、訪問の約束をするための電話は、ほとんどが携帯であるため、自分も携帯電話で掛けます。

しかし、知らない番号のため、最初に出ていただくのは本当に少なく、留守番電話に入れることもあります。また、赤ちゃんを寝かせている時のタイミングだと申し訳ないと思い、長くはコールせず、ショートメールで『小牧市からの依頼で赤ちゃん訪問に伺いたいと思います。ご予約をお聞かせください。またご連絡します。』というような文面を送り、その後お電話をすると出ていただけることが多かったと思います。それでもつながらないお宅は直接訪問をし、『保健連絡員です。○日にお伺いしましたがお留守でしたので、また来ます。』という不在票に自分の連絡先を書いてポストに入れ、また後日伺います。私は何十件か訪問させていただきましたが、最終的に会えなかったおうちには1件もなく、訪問をして不在票を入れたおうちには1件だけであり、相手の方も良かったため、訪問は上手くいったと思います。

赤ちゃん訪問の中でお話しするときには「かわいいですね。」というお話しから始め、「今はかわいいばかりだと思いますが、この先、かわいいばかりではなく、怒ってしまうこともあると思います。

しかし、どのお母さんも経験することだと思うので、落ち込まなくて良いですよ。」など、自分の失敗談もたくさんお話し、「うまくいくばかりではありません。」ということもお話ししています。おやつにしても、手作りおやつだとか、果物を食べさせてくださいなど保健センターからのお話があるかもしれませんが、上の子どもがいたら、やはりスナック菓子のデビューは早いですし、早く寝かせるように言われてもお父さんの帰りが遅いとそんなに

早く寝かせることができず、「思うようにはいかないです。」というようにことをお話しして安心してもらえるようにしています。保健センターの方だとそういったことは勧めるわけにはいかないのです、近所のおばさんだからこそ、そういったこともお話してもいいのかなと思い、そんなお話もしています。

また、赤ちゃん訪問の依頼書に世帯主、多くはお父さんの名前と、赤ちゃんの名前がありますが、お母さんのお名前は載っていません。今後何年間か『〇〇ちゃんのお母さん』と言われて過ごす期間が長くなると思います。そのため、お母さんは自分の名前でも呼んでもらえる期間が少なくなっている様な気がします。自分の名前を呼んでもらえないと、会社でバリバリ働いてきた方にとっては、家庭に入ってしまった、社会から取り残されてしまった感じる方がもしかするといらっしゃるかもしれません。そのため、赤ちゃんのメッセージとお母さんのメッセージを書いてもらう時に、子どもさんがなかなか授からず、やっとお母さんになられた方は『〇〇ちゃんのお母さん』と言ってもらえるのがうれしい方もいるかもしれませんが、『〇〇ちゃんのお母さん』ばかりではなく、お母さんのお名前で『〇〇さんへ』としていただけるとうれしいのではないかとも思いました。以上です。

(会長)

ありがとうございました。では、川崎委員、お願いします。

(川崎委員)

赤ちゃん訪問のことについて、他の市や他の町でも会議とかで話が出る場合があります。他市町村では、訪問員さんと一緒に私達のような家庭児童相談員が全て一緒に入っているような地区もあれば、今後フォローしなくてはいけないだろう親子については、手帳の交付時から赤ちゃん訪問の連絡員さんや家庭児童相談員、こども政策課の担当の人が入っている、ということも最近多く聞かれます。うまくいっているケースもあれば、つながらないケースもありますが、フォローとしてやっていっても良いのではないかなと思いました。訪問員さんだけで担うには負担ではないか、という思いはあります。今枝委員の話聞いていて、私達もそう

ですが、連絡ひとつ取るのも本当に大変だと思います。連絡が取れたため行こうと思っても時間の制限があったり、訪問に対して拒否的な方も多いと思います。そのため、訪問に行くのは一人ではなく、一人・二人と、訪問するご家庭の負担ではない範囲でやっていくのも良いのではないかと感じています。

(会長)

ありがとうございます。続きまして、旭委員お願いします。

(旭委員)

保健連絡員活動については、18年続けてこられ、こういった意義があるか、データで出ていなくてもポジティブなリアクションが少しでもあるということは、これからも続けていく意味はあるのかなと私は思います。私の個人的な経験ですが、私は子育て世代ど真ん中の年齢です。中学生や高校生の時にワン切りに掛け直すと出会い系サイトとかにつながってしまう詐欺が非常に多くありました。その経験を経ているので、やはり知らない番号には出ませんし、掛け直すことも躊躇すると周りの友人も言っており、そういったことが関係するのではないかと考えています。今は、例えば転職サイトみたいなところに登録しても、『この番号から掛かってきます』とホームページに載っていたり、事前に電話番号をお知らせしてあるため電話に出なかった場合、『こういった理由でお電話しました』というショートメールを送ってくださいます。

そのため、連絡があると登録して備える方もいらっしゃると思いますし、私みたいなちょっとズボラなタイプでもメールと電話とつなぎ合わせて掛け直したりできるので、コールバックする確率が少し高くなるのではないかと考えました。また、赤ちゃん訪問で歯ブラシがもらえる、しかも子どもだけでなく、親の分ももらえると聞きました。ベネッセ等登録するときも、大体無料の何かがもらえることがホームページなどに載っており、それを目当てで登録します。しかしその後、DMとかが来るので、“しまった”と思いますが、児童館へ行くとお母さんたちがお揃いで持っているもので、そういった無料でももらえるものは喜ばれると思います。そのため、妊娠初期にお断りされた方も歯ブラシが後からもらえ

ると分かれば、「やはり赤ちゃん訪問に来てもらいたい」と思うのではないかと思います。出生証明書を提出された方に『小牧市は赤ちゃん訪問で歯ブラシをお渡ししています』とか『保健連絡員の方から携帯電話でお電話があります』など教えていただけると、電話やショートメールがきても、「出生証明書の時に教えてもらったな。怪しいものじゃないな。」と思うので、もっとプレゼントもアピールされても良いのかなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。続きまして森島委員お願いします。

(森島委員)

赤ちゃん訪問について、先ほど今枝委員の方から、近所のおばちゃんとしての大切な役割について聞かせていただきました。本当に親子にとって有難いことであり、これからも続けていくべきことだなと思います。資料 1-5 の大変なこと・困ったことの欄に、専門的なことを聞かれて困った、とありますが、私達子育て世代包括支援センターの中でも育児相談を受けて、やはり 0～4 か月くらいで一番多い相談は哺乳についてです。近所のおばちゃんの保健連絡員さんに加えて、専門的な部分のお力を貸していただけるような助産師だったり保健師だったり、地区担の方もこれからつながっていくため、そのような方が一緒に付き添って行っていただけると心強いのかなと思います。受けたお母さん達はそう思うと思いますので、そのような感想を伝えさせていただきます。以上です。

(会長)

ありがとうございました。では松永委員お願いします。

(松永委員)

本日は遅れてきまして、申し訳ありませんでした。

赤ちゃん訪問についてはずっと続いているということはそれだけの効果や希望があったということであるため、ぜひ続けると良いかなと思います。知り合いで最近赤ちゃん訪問を受けた方が見えました。その時に「どうだった？」と聞いてみたところ、やはり親子健康手帳交付時に希望しますか、どうしますかということ

を聞かれ、そこで返事をしてきたようです。ただ、そこから、みなさんがおっしゃるように期間が長く、その頃になり何度も電話がかかってきて、知らない電話番号には出ないことにしていたため、分かりにくかったようです。ただ何度もかかってきたため、そういえばそのくらいの月だったなと思い、電話をかけ直した、ということがありました。ただ産後1～2か月のときはお母さんも赤ちゃんも生活リズムがついていない時期なので、なかなか電話に出られなかったということも理由のひとつであった、と聞いています。あらかじめ、先ほど言われたように、ショートメール等で事前に一報あれば、もう少し早く電話に出られたかな、とっておりました。ただ、名古屋市等やっていない所も多い中で、地域のおばちゃんが気楽に声をかけてくれ、来てもらってうれしかったと、いう話がありました。

そのため、専門的な支援が必要な時はつなげれば良いと思いますが、気楽に来て声をかけてもらっただけでも、親子で過ごしている日中に赤ちゃん以外の人と話をすることで、社会とのつながりができ、気持ちが楽になった、ということもお聞きしました。そのため、複数での訪問は良い部分もありますが、大勢で来られて大変になるという部分もあるので、ケースバイケースではないかとも感じております。

もう一点、先ほども今枝委員がおっしゃったように『〇〇ちゃんのお母さん』というところが、実は保育園でもお迎えに来ていたお母さんに『〇〇ちゃんのお母さん』と声をかけた時、保護者の方から「この子の親ですが、私は私なんです。」というご意見をいただいたことがありました。お母さんではあるのですが、「“私”ということをお大事にして欲しい」というお言葉だと私も受け止めました。『〇〇ちゃんのお母さん』でうれしい方もいれば、その方のようにお名前を呼ばれることを大事にする方もおみえになり、そのような思いをお持ちの方もいるのではないかと思います。

(会長)

続きまして、村瀬委員お願いします。

(村瀬委員)

このお話しをいただいた時に、滋賀県だったか明石市だったか、オムツの宅配を通して、この赤ちゃん訪問と同じような取り組みをしている地域があることを知りました。それが非常に地域の方に評判が良く、同じ取り組みをするとところが他にもあるというネットニュースを見て、「同じ話だな」と思い見ておりました。ただこの取り組みも非常に評判が良いらしいのですが、同じようなお悩みもあるようで、やはり連絡が取れない人は最後まで連絡が取れず、この点をどうするかが課題だというようなことが書かれてあったと思います。このことについて、私の職場である高校の教員にどう思うか聞いたところ、若い人ほど「訪問されてもたぶん自分はお会いすることはないのではないかな。」ということをおっしゃっていました。理由としては、「保健師さんではなく一般の人が来ることについて非常に心配だということがあり、こういうご時世なので、本当にその人であるかどうかの保証があるわけでもなく、こういう名札を下げているわけでもないだろうし『連絡員です』と言われてもそれを本当に信用して良いのか、更にそれが女性ではなくて男性だったら開けるのも嫌だ。訪問をされても戸を開けることはないかもしれない、連絡をいただいても電話に出ることがないかもしれない。」ということをおっしゃっていました。一部の人にとっては心配な事が多い取り組みなのかなとも感じました。どうしたら良いかということも話をしたのですが、地域の人であることは確かかもしれませんが、自分の知らない方が突然訪問をされるということとはとても不安なことなので、先ほどカードを入れるというようなお話もありましたが、『どういう人で、お名前はこういうふうな方が来ます』ということをお封書なり葉書なりで前もって知らされていれば、自分もこういう人がこの時間に来てくれるということを確認できるので、その方が安心である。」とおっしゃっていました。個人情報問題もありますが、電話ではなく連絡票などに書いた方が良いのではないかと感じました。同じように高校の方でも、例えば不登校の子だったり、関係をつくるのが少し難しい保護者の方とお話しをしなくてはいけない場合もありますが、教育相談という領域の場では、スキルの問題ですが、

人間関係をつくる時はこちら側から自己開示を行う方が事がスムーズにいくんだよ、と言われます。そのため、訪問する側からの自己開示、自己紹介をしてからの訪問の方がもしかしたらうまくいくのではないかということを感じました。以上です。

(会長)

ありがとうございます。続きまして山崎委員お願いします。

(山崎委員)

この資料のご説明をいただいた時に、保健連絡員の人選が地区に任されているという話を聞きました。地域の実態があるので、地域のどなたがふさわしいかということで選んでいただけるのも大切だと思いますが、地域の中には保育士のOBや助産師のOB、養護教諭のOBとか教員のOBなどがいらっしゃるのではないかと思います。そういう方だと、かつていろいろな保護者やいろいろな子どもたちと接した経験がおありだと思います。そのため、連絡が取りにくい家庭があったり、お話しするのが苦手な方がいたりしたときでも、一般の方よりは経験があると思いますので、そういう方に担っていただけると良いのではないかと思います。私も退職して地域で過ごすことになった時、フルタイムで今の仕事を続けるというのは少し辛いと思いますが、地域で今まで自分がやってきたことを活かして地域のためにお手伝いできることがもしあれば、やらせていただけたらと思っています。そのような方もきっといると思いますので、その方々にお願いするという方法もあるのではないかと思います。先ほど村瀬委員もおっしゃっていましたが、学校の教員だと不登校や連絡が全くとれない家庭、未納の家庭にお金を出していただかなくてはいけないこともあり、いろいろ苦勞して保護者や子どもと接した経験があると思います。赤ちゃんがいる家庭に訪問するのと一緒ではないと思いますが、ノウハウが活かせる部分もあるのではないかなと思います。しかし、地域の方もとても大切だと思います。自分が子育てをしているときに、私は夫の実家に住んでいました。地域のことが分からないまま0歳から保育園に入れ、保育園に行かせている間は私は全く地域のことを分かっていませんでした。しかし、

小学校に上がる時に通学団や子ども会に入れさせていただいたので、地域にはこういう方がいてこういう年代の違うお子さんがいたり、夫のことを子どもの時から知っている方々がいて、こういう方々がいるのだということを初めて知り、自分の子にも目をかけてくださったりするので、やはり地域とのつながりも有難いものだし大切だということは分かりました。最初抵抗があっても、知ると有難い部分がたくさんあると思いますので、あきらめずに関わりを持っていていただきたいと思います。以上です。

(会長)

山崎委員ありがとうございました。ただいま一通り赤ちゃん訪問について皆さまのご感想、ご意見をいただきました。皆さま方のところではどのような取り組みをしているか、その実態、あるいは今やられているところで、こんなことをしたら良いのではないかなというようなご意見があれば引き続きお願いします。いかがでしょうか。今枝委員お願いします。

(今枝委員)

地域の3あい活動の方で、未就園児3歳までのおひな祭りを毎年3月3日にやっています。男の子も女の子も参加ができ、子育てサロンとして活動をしております。赤ちゃん訪問で伺った際に「子育てサロンもありますので、また近くになったらお声をかけさせてもらいますけど良いですか。」「またその時にお電話させていただきますが、良いですか。」とお話し、声をかけてきます。地区の回覧板でも回しますが、回覧板で回ってきても名前を書く参加申し込みは少ないので、直接お電話をして「子育てサロンのおひな祭りに参加してください」と連絡をしています。

(会長)

ありがとうございます。たくさんご参加されるのですか。

(今枝委員)

そうですね。割とたくさん参加されています。

(会長)

その中でご支援をされているということですね。

(今枝委員)

歌を歌ったり、ペープサート(紙人形劇)のようなものを、得意な同じ地区のおばちゃんがやったり、かつての婦人会の人達でお赤飯を炊いて、他のメニューも少しありますが、みんなで食事をしたり、午前中にやっています。

(会長)

ありがとうございました。その他のところはいかがでしょうか。何かこんなことをやっています、ということがありますたらお願いします。森島委員お願いします。

(森島委員)

子育て包括支援センターの中では子育て講座をたくさんやっております。その中で、地域のおじいちゃんおばあちゃん達が親子の支援室に来てくれる、子どもさんと触れ合って楽しむというような講座もあります。おじいちゃんおばあちゃん達世代ですと、なかなか自己肯定感という言葉にも聞きなじみがなく、意味も少し理解されていないという年代だと思います。しかし、そういう講座に来ること自体が、積極的に地域に関わりたいという思いを持ってみえるということですので、おじいちゃんおばあちゃんの気持ちをねぎらいながらも「おじいちゃんおばあちゃん達がきつとされているだろう、さりげないお母さんや親子へのねぎらいの気持ちは、自己肯定感につながっているんですよ。」ということをお伝えしていくことで、今まで以上に積極的に声をかけていただけると良いのかなと思っています。

(会長)

ありがとうございました。その他ご意見はいかがでしょうか。今、子育てのところ、あるいは地区でのお話しが出ましたが、どうでしょうか、小・中の養護の先生のところではどうでしょうか。お子さん達が多いですが、何かありますでしょうか。

(山崎委員)

子どもに対することで良いですか。それとも保護者ということですか。

(会長)

どちらでもよろしいです。お願いします。

(山崎委員)

子どもに関することでは、保健センターの方に大変お世話になっておりますが、小牧市では小中学校において『生と性のカリキュラム』という各2時間×9学年分揃えて小学校1年生から中学校3年生まで体に関すること、心に関することの指導の中で自己肯定感というものを意識して、指導するカリキュラムができていますので、おおよそ実施できていると思います。うちの中学3年生に、生と性のカリキュラムの中の1時間を指導したところですが、ねらいにあるため私が意識して指導したことは、先ほどからの話につながるころがあると思いますが、『自立って何だろう』という話をしました。中学生だと、自立を大雑把に言うと、自分のことが自分でできる、生活的に自立している、身の回りのことができる、何でも自分のことがきちんとできる、ということを考えがちです。しかし、大人になると分かりますが、何でも自分ひとりだけでできる人は大人になってもいないわけで、人を助けたり人に助けられたりしながら生活できるというのも、自立の力の中の大事なひとつなんだよ、ということをお話しました。『確かにそうだな』と感想に書いてある子もいるし、『いや、そうは言うけど、やっぱり自分のことは自分でできなければいけないと思いました。』というようなことを書いていた子もいました。ちょうど中学校3年生の今の時期なので、『とりあえず、受験勉強頑張ります。』と書く子ももちろんいますし、『自分の夢に近づくためにはまず高校に入って、高校で頑張って勉強できるように、今勉強することが今の僕に、私にできることだと思います。』と身近なところから気づく子もいます。1年の中の2時間ですが、普通の授業とは違う話なので、印象には残っているのではないかと思います。

(会長)

ありがとうございました。高校はどうでしょうか。何かありますでしょうか。

(村瀬委員)

本校では実施できていないのであまり大きなことは言えませんが、小牧市内の高校の方で保健師さんに来ていただき授業をして

いただく取り組みをしてもらっています。来てもらった学校の感想を聞くと、非常にそれが有難く、生徒の評判も良かったと、将来お母さんになる人達のために真剣にお話をしてくださり、また、その授業をしていただくつながりの中で、保健師さんと学校の連携が取れるため、将来困ったときに力になっていただける関係作りができたということは非常に有難いということを知っています。

うちの高校では実施できていないので、うちでも進めていきたいと考えております。しかし、課題のひとつとして、その授業は全体を通してのお話しであるため、どうしてもそこから漏れていたり響かない子がいます。赤ちゃん訪問の件もそうですが、そこをどうするのかということが課題になってくると思います。どうしても漏れた少数の生徒に対しては、別の方向からのアプローチが必要なのではないかと、全体指導ではなく個別指導でどのような話なら響くのか、誰から話をしてもらったら響くのかなど、そういうことも検討していかなくてはいけないと感じています。全体的な指導と個別指導と両方から攻めていくのが大事かなと思っています。以上です。

(会長)

ありがとうございます。どうでしょうか。松永委員、何かありますでしょうか。

(松永委員)

保育園は基本的にお母様方、保護者、送迎の方々を対象にしていますが、特に3歳前の0歳1歳2歳の方に関しては、毎日のお帳面の中でお母さんがやってみえたことを肯定的に受け止めたり、相談に乗ったり、フォローしながら子育ての応援をしていきたいと、現在やっているところです。今後の課題としては、保育園の保護者のみならず、地域の子育て中のお母さん達ができるだけ保育園に来てもらい、そこで交流できないかという思いで、園庭開放というものを行っております。そういった機会を捉え、何か支援につながらないかと検討しているような状況です。

(会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。三輪委員どう

でしょうか。

(三輪委員)

はい、私は産婦人科なのでお産の話になってしまうのですが、今の出産はどちらかというと、痛くなく安全に産ませてもらいたいという考えが非常に主流だと思います。やはり妊娠・出産のときこそお母さんが変わるとても良いチャンス、きっかけになるので、とても大事な時期だと思っています。自然なお産をすることで愛情とか絆づくりのオキシトシンというホルモンも出て、赤ちゃんへの愛着形成も促されます。そのため、お母さん自身が産ませてもらうのではなくて、自分で産んだという達成感のある良いお産をすることで、お母さんも自分に自信がついて自分を信頼することができるようになるため、自己肯定をするにはここはとても大きいと思うのです。自己肯定感が本当に育まれる、お母さんががらっと変わっていく瞬間だと思います。例えば「こんなすごいことを乗り越えた自分をほめてあげたい」「こんな頑張った、私」という声が良く聞かれるので、お産というのは助産師が寄り添って、お母さんが自分で産んだというお産ができるようなサポートができると一番良いのではないかと思います。授乳に関しても、母乳育児はとても大事だと思います。母乳が出るようになって赤ちゃんもしっかりおっぱいを飲むようになると、お母さんはとても自信がついてくるので、お産後の顔を見ていてもおっぱいが出てくるようになると、顔つきが全然違ってきます。そこで育児の自信もついてきますので、これもとても大事な時期だと思います。ちょうど日本の産院は、5日間から6日間の入院期間がありますので、そこでスタッフがマンツーマンでお母さんに寄り添い、おっぱいのことや育児のことなどを教えて、お母さんを見守りながら入院中にお母さんが赤ちゃんとのペースをつかんで、自信を持っておうちに帰っていただける大事な入院期間だと思っています。ただその期間ではなかなかおっぱいの出がゆっくりだったり、育児もまだちょっと心配かなというお母さんもいらっしゃいます。そういった方に産後ケアをご紹介したり、おっぱい外来でつなげていき、スタッフが継続的にフォローをしていくようにしていま

すが、心配な方は子育て世代包括支援センターの方へつなげています。妊娠・出産というとても大事な時期を大切にしていきたいと思っています。妊娠を前向きにとらえられないお母さんも、助産師やスタッフが寄り添い、励ましたり、頑張りを認めていくうちに出産を前向きにとらえることができ、良いお産をされた方もみえました。妊娠・出産はお母さんが変わる大事な時期だと思います。

(会長)

現況を聞かせていただいてありがとうございました。

(事務局)

山本委員からも何かご意見をいただけたらと思います。

(会長)

山本委員、いかがでしょうか。

(山本委員)

今、保健所はどちらかというとお子さん達に関わる機会というのはとても少なくなっています。うちの職場にも若い職員がいます。そういう人達が結婚し、お母さんになっていくのだと思いますが、私が若い頃は未熟児の訪問に行かせていただいていたので、赤ちゃんのところに訪問をすることはそんなに違和感はありませんでした。しかし、おそらく若い人達は自分達のおうちに違う人、他人が来るという機会はあまりないのだろうと思いますので、家に誰かが来る事には少し抵抗はあるのではないかと感じたりすることがあります。今、お話を聞いていて思ったのは、保健連絡員さんたちはボランティアとおっしゃっていましたが、例えば電話代はどうなっているのかなと思いました。ショートメールや電話をするなど本当に努力をされておられ、そうなると保健センターの電話なら出るのかなと思ったり、その辺は難しいところがあると思いました。来てもらうお母さん達はどういう人だったら来てもらいたいと思っているのか。いろいろなタイプの人が見えると思います。専門的なことをもっと教えて欲しいと思っている人もいるし、近所の人で声をかけてくれる人がいるといいなと思っている人もいるし、いろいろなのだろうと思います。ただ近所の人

はあまり知らない、特に今はお仕事している人もたくさんいますので、近所に誰がいるのか分からず『本当にこの人、近所の人なの。』という人もきつといるのではないかと思います。自分達も仕事をしていたので、そういう感じもありますが、そんな中でやっていくというのはなかなか現実的には厳しいかなと感じています。でも、来てもらえて良かったというところもあると思うので、そういう機会はあったほうが良いと思います。

小牧市の真ん中にあるラピオの中に子育て世代包括支援センターがありますが、中心部以外に住んでいる人たちはどのような子育て支援があるのか、各々の地域で集まる場などその地域での子育てに関する情報もたくさん知らせてあげ、また、そのような情報が上手く入るような仕組みができると良いのかなと思います。

登録すると情報が来るシステム、小牧市もあると思いますが、そういう中でも保健連絡員さんのことも流していけると良いかと思えますし、出生届を出した窓口でおめでとうございますというのに併せてしっかりと伝えていただけると良いのかと思いました。

(会長)

ありがとうございました。どうぞ今枝委員。

(今枝委員)

赤ちゃん訪問ですが、赤ちゃん訪問をする目的は保健センターとつなぐ役割もあります。近所のおばちゃんが見えただけではなく、困っている人がいないか、専門的なことを聞かれたら「こんなことを聞かれました」と保健センターに連絡し、その後保健センターの方から再度訪問していただくこともあります。少し落ち込んでいるような方もお知らせしているので、保健センターへつなぐという役割もあります。

(会長)

ありがとうございました。その他にご意見はありませんでしょうか。ないようですので、事務局のほうからお願いします。

(事務局)

赤ちゃん訪問の周知方法として、親子健康手帳交付時に『赤ちゃん訪問がありますが、訪問に行っても良いですか』と確認し、

『生まれて1～3か月くらいの中に連絡が入ります』ということをお伝えしています。生まれた後は、出生届のときに市民課で赤ちゃん訪問のご案内チラシを渡してもらっています。以前は産婦人科さんにもチラシを置かせていただいた時もありました。先ほどいただいた、子育てアプリが小牧にもあり、全員の方が登録はしてないのですが『子育てアプリで赤ちゃん訪問のお知らせができると良いね』と話をしていました。

現在保健連絡員さんは女性も男性もいますが、赤ちゃん訪問に関しては、おっばいが出にくいといった話もあるかもしれませんので、男性の保健連絡員さんが行くとどうしてもお母さんが言いたいことを言えなくなってしまうこともあるかもしれないため、男性の保健連絡員さんは地域で親子を見守ってもらう役割をしていただき、女性の保健連絡員さんだけ訪問をしていただいています。また、赤ちゃん訪問の説明会を実施し、「やります」と言っていた方に赤ちゃん訪問をやっていただいています。名札は手作りですが、その名札を下げた訪問に行っています。

(会長)

ありがとうございます。

(事務局)

ご質問いただいていたことの補足をさせていただきます。ボランティアというところで、お電話代とかメール代は大丈夫かというお声をいただきましたが、足代やお電話代というところで1件訪問に行けた、もしくは行ったけれども不在だったということで、報償費として、少額ですが1件ごとに出させていただきます。ちゃんとしたところからの訪問であるかというところについては、名札を保健センターの方からお作りしてお渡しをしております。また、名刺を作成し、裏面は保健センターの住所や電話番号、表側は〇〇区保健連絡員、もしくは保健連絡員OBと書いてあり、その地区の保健連絡員さんのお名前を入れてお渡しをいただくという形にさせていただきます。更にオフィシャル感を出していこうと考え、今回新しく刷りました名刺に関しては小牧のブランドマークを入れたものに今後差し替えをしていく予定にしていま

す。そういったオフィシャルなところも意識していかなければならないなというところは今のご意見からも更に感じました。ありがとうございます。

(会長)

ありがとうございました。はい、どうぞ。

(事務局)

今日は本当にありがとうございます。この議題を出させていただいたのは、平成14年からこの事業が始まりましたが、この訪問が自己肯定感を高めることになっているのかどうなのか、どんな気持ちで保健連絡員さんが訪問してくださっていたか、なかなか振り返りができませんでした。事業開始当初とは時代も変わってきており、皆さんのご意見の中から訪問は保健連絡員さんだけでは難しい時代ではありますが、地域の人として見守りを続けていける意味はあるという意見を伺うことができ、また、必要な時に専門職が介入したり、近所のおばさんだからこそ話せるということもとても必要であることが確認できました。

森島委員から、おじいちゃんおばあちゃん達が地域の親子を支えてくれる時に、関わる先生方も「『こうやって来てくださってありがとうございます』ということが良いですよ」とお伝えしていただいていることも伺い、自分達も保健連絡員さん達と関わる時に「こういうことが良いですよ。」ということを一言きちんと伝えていくこともひとつ大事なことで、それが地域のお母さん達も支えていくことができるのではないかと改めて再確認できました。

話が少し変わりますが、こどもは興味があると周りの目を気にせず行動します。反対に大人は周りの人たちの視線やその後の影響を考えてしまいます。今の時代は、子育てするにも難しい時代であり、子どもらしい行動を冷ややかな視線で見る大人が増えてきているようで、温かく見守れない社会になってきています。そんな今だからこそ、みんなで子ども子育て世代に目を向け温かく見守れる社会、地域になると良いよう自分達がどのように支援をしていけると良いのかということをもっと深めていきたいと、みなさんのご意見を伺って思いました。ありがとうございました。

(会長)

事務局、ありがとうございました。ではよろしいでしょうか。他にご意見がなければ協議事項は終わりました。では事務局の方をお願いいたします。

(事務局：所長)

長時間にわたる協議ありがとうございました。次回は、令和2年2月28日(金)午後1時30分からを予定しております。

また、冬となり日没時間が早くなりました。薄暮の時間は交通事故が最もおきやすい時間帯となりますので車でお帰りの際は早めのヘッドライトの点灯に心がけ、交通事故に十分お気をつけてお帰りいただきますようお願いいたします。それではこれをもって令和元年度第3回小牧市母子保健推進協議会を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。